

「令和2年度に実施した仕事」の振返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 3 年 4 月 6 日

事業名称		交通安全推進事業費 [交通安全推進事業]							
予算科目	款 2	総務費	項 1	総務管理費	目 9	公安費	事業番号	2	
事業の種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)								
担当部署・課長名	土木		課		交通安全対策		係	課長名	寺島 由紀夫
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。						施策番号	4 - 4		
【施策名】 道路・交通の整備						総合計画書(ページ)	89		
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 市民等で市内公共道路の利用者				① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 市民等で市内公共道路の利用者数				
	→								
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 市内での交通事故の発生と死傷者数を最大限抑制する。				② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 前年数値より減少させる。				
	→								
3 そのために何をしましたか。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)								
	①交通立看板の設置・交換 ②春・秋の全国交通安全運動の実施 ③交通安全教室の実施 ④東大和地区交通安全協会に対する支援 ⑤東京都市町村民交通災害共済の加入促進 ⑥高齢者運転免許証自主返納支援(運転免許証を自主返納した65歳以上の市民で希望者にちよこバス回数乗車券を1冊交付)				①通学路等に設置・交換した交通立看板の数 ②市報への掲載、交通立看板の設置(市内8箇所)回数 ③幼児、児童、生徒、高齢者を対象とした交通安全教室の実施数 ④東大和地区交通安全協会に対する補助金額 ⑤Aコース、Bコースの加入受付数 ⑥回数乗車券の交付人数				
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度	成果目標		
				平成30年度実績	平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標	令和4年度目標	
	対象指標	①の数値	人	—	—	—			
	成果指標	②の数値	件・人	事故件数(233件) 死傷者数(263人)	事故件数(240件) 死傷者数(281人)	事故件数(272件) 死傷者数(312人)			
	目 標	②の目標値		事故件数(242件未満) 死傷者数(294人未満)	事故件数(233件未満) 死傷者数(263人未満)	事故件数(240件未満) 死傷者数(281人未満)	事故件数(272件未満) 死傷者数(312人未満)		
目標値設定の考え方 市内での交通事故の発生と死傷者数を前年より減少させる。									
活動指標	③の数値		①新設62箇所、交換17箇所②春・秋各1回③幼児10回、児童10回、生徒1回、高齢者1回④1,545,480円⑤A 3,128人、B1,270人	①新設97箇所、交換8箇所②春・秋各1回③幼児10回、児童10回、生徒1回、高齢者1回④1,539,612円⑤A 2,705人、B1,130人⑥300人	①新設84箇所、交換23箇所②春・秋各1回③幼児5回、児童1回、生徒0回、高齢者1回④1,534,986円⑤A 2,644人、B1,092人⑥216人				
3 経費	事業費(実績)		円	2,542,071	3,277,886	2,106,037	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,380,000円 時間単価は、4,300円 で計算してください。 【算出根拠】平成31年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)		
	財源	一般財源	円	2,387,881	3,134,256	1,978,747			
		特定財源(国・都・他)	円	154,190	143,630	127,290			
		(うち受益者負担)	円	0	0	0			
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.96	0.96	0.96			
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0			
		職員人件費(再任用以外)	円	7,914,240	7,977,600	8,044,800			
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0				
事業費+人件費		円	10,456,311	11,255,486	10,150,837				
4 環境変化等	(1) 開始年度		不明 年度						
	(2) 環境の変化		・中学生を対象としたスタントマンによる体験型自転車交通安全教室を警察署の協力を得て、平成20年度から実施している。 ・高齢者を対象とした交通安全教室を平成27年度から実施している。 ・運転免許証を自主返納した65歳以上の市民を対象(希望者)にコミュニティバス回数乗車券の交付を令和元年7月から新規事業として実施している。						

事業名称	交通安全推進事業費 [交通安全推進事業]				
担当部署・課長名	土木	課	交通安全対策	係	課長名 寺島 由紀夫

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和2年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について ・中学生を対象としたスタントマンによる体験型自転車交通安全教室では、令和2年度ではないが、過去の議会において、さらなる広報により近隣住民等の一般の参加を促す必要があるとの意見があった。 ・高齢者運転免許証自主返納支援事業では、「ちょこバスの回数乗車券を貰っても、自分が住む地域にはちょこバスが走っていない。」、「ちょこバスの回数乗車券だけでなく、多くの特典があるとよい。」などの要望等があった。				
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）				
	☒ 取り組んだ	取組手法：⑥情報提供・情報交換（広報媒体：市報・チラシ・ホームページ・コミュニティビジョン）			
	☐ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
	(2)令和3年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点				
7 課題	(1)令和2年度に課題とした内容（「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記） ・情報提供の範囲の拡大や周知方法の検討の余地がある。 ・ちょこバス回数乗車券の購入は、少しずつ行わないと、年度の最後に残ってしまい、回数乗車券の購入枚数と返納者の数に違いが出てしまったため、適切な枚数を購入していく必要がある。				
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和2年度に実施したこと。 ・各種交通安全教室・講習会は、新型コロナウイルスのため大半が中止になった。 ・高齢者運転免許証自主返納支援事業では、エクセルで集計表を作成し、重複申請がないよう検索機能も取り入れ、適切にした。 ・回数乗車券の購入を少しずつ行い、年度末に大量に残らないよう努めた。				
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）				
	高齢者運転免許証自主返納支援事業では、コロナ禍で申請者数の予測が難しい。				
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。） 施策名： 道路・交通の整備 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）				
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 ・体験型自転車交通安全教室の実施について、開催日程を決める際に、一般参加者（特に保護者）が参加しやすい土曜日や日曜日（公開授業）などに開催する等、中学校との調整も必要である。 ・高齢化社会により、高齢ドライバーが関与する交通事故も増加傾向にあることから、交通事故の減少を図るために、引き続き、高齢者の運転免許証の自主返納を促す情報提供や交通安全教室を行っていく。				
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等				
	・体験型自転車交通安全教室の実施について、開催日を決める際に、一般参加者（特に保護者）が参加しやすい土曜日や日曜日（公開授業）などに開催するには、次年度の学校行事を決める早い段階での中学校との調整が必要である。				